

吉川 義隆

- 練習場名: 鴻巣ジャンボゴルフセンター
- 年齢: 68歳
- 勤務歴: 42年
- 役職: 取締役支配人



当ゴルフセンターは関文グループの1事業所で開場は平成3年12月19日です。私は、この会社入社前は東京に憧れはとバス興業、東京タワー営業所に勤務しておりました。当時は、東京オリンピックが開催された後でタワーの添乗者も大変多く毎日賑わっておりました。お客様相手の仕事は先ず親切と愛想が必要です。各地から観光バスで来場されるお客様を優しく案内し喜ばれた事が多々ございました。しかしながら、毎日片道3時間に超える交通機関に長続きは出来ませんでした。昭和44年8月秩父路の観光地に長瀬カントリークラブが開場したという知らせを聞きコース見学に行った時に、当時の支配人に声を掛けられた事をきっかけにゴルフ場の営業係として入社致しました。まだその頃はゴルフが盛んでなかったものですから集客に大変苦労致しました。その後、田中総理大臣の列島改造論により関越高速道が花園インター迄完成し、都内からのアクセスが良くなった事によりゴルフ場の来場者も大変多くなりました。これにより会社経営も上昇し、当時は「川里村」に鴻巣カントリークラブを建設致しました。鴻巣カントリークラブはコース状況や市内からのアクセスも良い事からお客様も大盛況でありました。景気上昇により、ゴルフ場の隣りに、1階44打席の練習場を建設する事になりました。練習場建設に当り、長瀬カントリークラブ営業渉外活動、練習場廻りをしていた私が責任者として任命されました。練習場建設に当りどのような練習機器を導入したらよいか、また練習場がどのような運営をしているのかを再確認のため近隣の練習場を視察致しました。その中で、特に近代的設備(オートセッター)を有する練習場が手動式練習場と比べ来場者が多く見受けられました。視察内容も定まり平成3年8月、昨年度と同様に猛暑と雨の多い中建設が始まりました。工事期間約5ヶ月を掛け無事12月18日に1階44打席の練習場をオープンする事が出来ました。営業開始により、フロント受付係りについては何方でも気持ち良い対応できるスタッフを採用。スタッフは、私の期待に応え来場者は予想以上に入りました。その後も週末や夜間には打席が満員になり打席待ちが沢山でるようになった事から、平成7年4月2階に44打席を増設、練習場が88打席と大きくなった事から、当時人気絶好調のジャンボ尾崎プロにあやかり鴻巣ゴルフ練習場から、鴻巣ジャンボゴルフセンターと改称致し、営業も順調に進みました。

皆様方のご支援ご協力等もあり、この12月に開場20周年を迎える事になります。私がこれまで行ってきました営業方針や震災復旧対策等についても、自分なりに満足出来るものとなりました。

橋本 幸治



- 練習場名:新御堂ゴルフセンター
- 年齢:46歳
- 勤務歴:24年
- 役職:専務取締役

私どもの新御堂ゴルフセンターは、大阪北部吹田市江坂町にある創業は昭和48年8月の3階建て48打席距離150ヤードの大阪では規模の小さい練習場です。近隣10キロ圏内には、80打席以上250ヤード以上の大型練習場が4軒ありますが、定期的に情報交換をしながら業界の発展に向けて取り組んでいます。お客様の傾向としては、午前中は、シニアの方、午後からは前に幹線道路が通っているため、営業途中の会社員や学生、主婦そして夜間になると、仕事帰りのグループで賑わいます。ゴルフの楽しさは、やってみないとわからない観点から『手ぶらでどうぞ』を看板に掲げ、貸クラブ・入場料無料を実施しています。特に貸クラブは、ジュニア用も取り揃えたことにより、毎日約15人程度の方が利用されています。

企業理念としては、『地元で愛されるゴルフ練習場』を目指しております。そのため、地域の祭りや地域活動にも積極的に参加し、また、地域からのお願い事にも出来る限り対応しております。

しかしながら、昭和61年にプリペイドカードを導入し、それまでの受付・精算方式を無くし、駐車場からも自由に打席に入っていたが、練習後は、そのまま帰っていただく形式になりました。そのため、クラブハウスやフロント周辺に立ち寄るお客様が激減し、お客様と従業員のコミュニケーションを取ることが難しくなってきました。まさに『地元で愛されるゴルフ練習場』の体が保てなくなってきたといえる時期です。そこで、フロント業務なく自由に打席に入ることの出来る形式は変わらないのですが、お客様との距離を近づけるためにさまざまな企画を考えました。

ひとつは、7月1日から8月31日の夏場には、打放し利用者だけでなく同伴者・取引先業者も含めて午後3時の来場者全員にアイスクャンディーをプレゼントしています。西向打席のため、強い西日がさす中、汗だくで練習しているお客様に対し、何かしてあげられないかとの感謝の気持ちを込めて始めた企画でしたが、非常に好評で、『極暑の3時に打球音が消える練習場』としてスポーツ紙にも掲載されたことがあります。

二つ目は、クラブ競技だけでなく、プライベートコンペでも優勝された方に申告頂いて記念品を差し上げています。1組だけでのコンペであろうと200名を越す大会であろうと、成績表さえお持ちいただければ、ゴルフボールを3個差し上げています。今後は、優勝回数ボードを作成して、年間最多優勝者争いみたいなことも進めていく予定です。

そのほかには、お正月の梅昆布茶振る舞いや、毎月22日の練習場の日の抽選会の公開抽選などクラブハウスにお客様がわざわざのぞきに来る、そんな仕掛けを続けていく予定です。

お客様の気持ちになって、コミュニケーションを取ること、場外でのイベントに積極的に参加していくことにより、お互いの新密度が増し、お客様には仲間の家に遊びに行くような、私どもにとっては、友人が尋ねてきてくれたような、そんな練習場空間作りを目指しています。それが、きっと『地元で愛されるゴルフ練習場』への道と信じて今日も取り組んでおります。

優秀指導者の部

中西 英二(桜宮ゴルフクラブ)

中西 英二



- 練習場名:桜宮ゴルフクラブ
- 年齢:42歳
- 勤務歴:18年
- 役職:

生涯スポーツというゴルフに出会い32年、ゴルフを生業として21年。経験を積み、年齢を重ねるごとに、ゴルフは私に新たな気付きをもたらしてくれます。だからますますゴルフを好きになり、離れられなくなります。

ゴルフとは、個人の成績という利己を追い求めるスポーツです。しかしプレーに於いては同組、前組、後続組のプレーヤーに対する配慮、自然への配慮、ゴルフ場の運営に対する配慮等、全ての行動は利他に他ならない不思議なスポーツです。つまり、自分のことだけでなく、他人を思いやる気持ちが大切であると思います。もしかすると、利他を追求することにより、ようやく利己が生じるかもしれないし、あるいは利他主義なくしては、利己を得ることは難しいのかもしれない。それが「ゴルフは紳士淑女のスポーツ」と言われる所以なのであろうと思います。

ゴルフとは、自分との戦いでありながら、他者とのつながり、自然とのつながりなくしてはスポーツとして、ましてや生業として成立しないと思います。

そのようなゴルフの魅力を、プレーの楽しみと共に、受講生の皆さんにも感じて頂きたいと思います。まずは受講生の皆さんに気持ちよく練習を楽しんで頂くために、レッスンに於いては、私が私の生徒さんに対してのみ誠心誠意レッスンするだけでは不十分であると思います。

レッスン中やその前後を通じて、他のティーチングプロのレッスンを受講されている方や一般のお客様にも不愉快な思いをさせない配慮が必要であるし、練習場のスタッフやティーチングプロ全員が、団結して同じ思いをもってお客様に向き合うことが不可欠であると思います。もちろん皆が気持ちよく仕事ができるように、練習場のスタッフ、ティーチングプロ間同士での心配りも同じく不可欠であると思います。

具体的には、スタッフがしてくれた事に対して「それが仕事なのだからあたりまえ」という気持ちに決してならないよう、感謝の気持ちを持ち、それを言葉で伝えるよう心がけています。

次にプロ間に於いてですが、レッスンに使用する打席や用具、休憩室などは皆で共有している物なので、次に使う人の身になり常に整理整頓するようにしています。

40歳を過ぎてなお、プレーヤーとして人として、ゴルフが、そしてそれに携わる人々が私を育ててくれていると感謝せずにはられません。これからも、ゴルフを通じてお客様と信頼関係が気付けるように、邁進したいと思います。